

四半期報告書

(第76期第3四半期)

自 2023年4月1日
至 2023年6月30日

(訂 正 版)

横浜冷凍株式会社

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書の訂正報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第4項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2025年1月6日
【四半期会計期間】	第76期第3四半期（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）
【会社名】	横浜冷凍株式会社
【英訳名】	YOKOREI CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 古瀬 健児
【本店の所在の場所】	横浜市鶴見区大黒町5番35号 (同所は登記上の本店所在地であり、実際の業務は「最寄りの連絡場所」で行っております。)
【電話番号】	該当事項はありません。
【事務連絡者氏名】	該当事項はありません。
【最寄りの連絡場所】	横浜市西区みなとみらい三丁目3番3号 横浜コネクタスクエア10階
【電話番号】	(045) 210-0011
【事務連絡者氏名】	執行役員財務経理部長 星 光孝
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1【四半期報告書の訂正報告書の提出理由】

当社は、2024年9月期の決算業務の実施過程において、当社と海外取引先との非定型な商品の購入取引及び販売契約に係る取引について、契約内容の経済的実態を改めて検討した結果、実質的に金融取引であることが判明したため、当該取引に関する収益認識の会計処理を過年度に遡って訂正する必要があると判断しました。

これを受けて、会計上の影響額を検証した結果、過去に提出済みの有価証券報告書等に記載されております連結財務諸表、財務諸表及び四半期連結財務諸表で対象となる部分について訂正することといたしました。

これらの決算訂正により、当社が2023年8月14日に提出しました第76期第3四半期(自2023年4月1日 至 2023年6月30日)に係る四半期報告書の一部を訂正する必要が生じたので、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出するものであります。

なお、当社は、訂正後の四半期連結財務諸表については、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けており、その四半期レビュー報告書を添付しております。

2【訂正事項】

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移

第2 事業の状況

2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

第4 経理の状況

1 四半期連結財務諸表

四半期レビュー報告書

3【訂正箇所】

訂正箇所は_____を付して表示しております。なお、訂正箇所が多数に及ぶことから、上記の訂正事項については、訂正後のみを記載しております。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次		第75期 第3四半期連結 累計期間	第76期 第3四半期連結 累計期間	第75期
会計期間		自2021年 10月1日 至2022年 6月30日	自2022年 10月1日 至2023年 6月30日	自2021年 10月1日 至2022年 9月30日
売上高	(百万円)	80,748	92,329	110,761
経常利益	(百万円)	4,395	3,419	4,999
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益	(百万円)	2,957	2,324	3,317
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	3,148	2,302	3,480
純資産額	(百万円)	84,458	85,581	84,768
総資産額	(百万円)	176,159	199,626	178,390
1株当たり四半期(当期)純利 益	(円)	50.24	39.54	56.34
自己資本比率	(%)	47.21	42.17	46.75
営業活動によるキャッシュ・フ ロー	(百万円)	2,889	△1,432	6,335
投資活動によるキャッシュ・フ ロー	(百万円)	△303	△14,058	△3,263
財務活動によるキャッシュ・フ ロー	(百万円)	△2,474	19,260	△3,839
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高	(百万円)	3,283	6,185	2,413

回次		第75期 第3四半期連結 会計期間	第76期 第3四半期連結 会計期間
会計期間		自2022年 4月1日 至2022年 6月30日	自2023年 4月1日 至2023年 6月30日
1株当たり四半期純利益	(円)	15.72	19.29

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 当社は、第68期第2四半期連結会計期間より「役員報酬B I P信託」を導入しており、当該信託が所有する当該株式を自己株式として処理しております。これに伴い、「1株当たり四半期(当期)純利益」の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間（2022年10月1日～2023年6月30日）におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症対策の緩和による経済活動の正常化に伴い、観光業や飲食業等が個人消費の回復を牽引しました。しかしながら、人手不足の問題の深刻化、資源価格や為替の変動による物価の上昇、人件費の高騰等が与える様々な価格への影響も懸念されており、社会全体が依然として先行きが不透明な状況が続いております。

当社が関わる食品業界においても、物価上昇による消費者の生活防衛意識や節約志向の高まりにより、消費マインドの改善は見込みにくい厳しい経営環境となっております。

このような状況のなか、当社グループは2030年に向けた長期的方針「ヨコレイ事業ビジョン2030」および「サステナビリティビジョン2030」実現に向け、2023年を最終年度とする中期経営計画（第I期）「創る力」に基づき、冷蔵倉庫事業は「事業モデルの創造」、食品販売事業は「新たな食の価値の創出」を方針とし、各重点戦略に取り組んでおります。

その結果、当社グループの当第3四半期連結累計期間の連結経営成績は、売上高92,329百万円（前期比14.4%増）、営業利益2,730百万円（前期比22.1%減）、経常利益3,419百万円（前期比22.2%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益2,324百万円（前期比21.4%減）となりました。

①冷蔵倉庫事業

当第3四半期連結累計期間は増収減益となりました。

入出庫量は前期並みに推移しましたが、行動制限が緩和され、インバウンドや外食回復を見込んだ取引先の在庫確保により、特に畜産品が高い在庫水準で推移し、保管料収入が前年を大きく上回り増収となりました。一方、電気料金の高騰、および今年3月に新設した「ちばりサーチパーク物流センター」の立ち上げ時の一時経費増加により若干の減益となりました。

タイの連結子会社THAI YOKOREI CO., LTD. も入庫量、出庫量は前期並みに推移しましたが、主要保管品目である畜産品の在庫が減少したことや、日本国内同様に電気料金高騰のため減収減益となりました。

以上の結果、冷蔵倉庫事業の業績は、売上高23,495百万円（前期比5.6%増）、営業利益5,009百万円（前期比1.8%減）となりました。

②食品販売事業

当第3四半期連結累計期間は増収減益となりました。

水産品は、ホタテが高値相場から取扱量が減少しましたが、主要品目であるサーモン、サバ等の他、気仙沼でのピンチョウマグロ豊漁による取扱いが増加し、水産品全体では増収増益と大きく伸長しました。

畜産品は、ポークが量販店への販路拡大、外食向けの需要回復により増収増益となりましたが、チキンは需給バランスが崩れ増収ながら減益となり、畜産品全体では増収減益となりました。また、チキンはブラジルでの鳥インフルエンザ発症に伴い、先行きが不透明な状況となっております。

農産品はイモ類、キャベツの取扱増加が不作の玉ねぎをカバーし、増収増益となりました。

以上の結果、食品販売事業の業績は、産地での豊漁により輸出向けを含む前浜原料の販売が好調であることや、行動制限の緩和による消費回復等により、当第3四半期連結累計期間では上半期の遅れを一部挽回し、売上高68,790百万円（前期比17.7%増）、営業利益831百万円（前期比18.2%減）となりました。

(2) 財政状態の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ21,236百万円増加し、199,626百万円となりました。これは主にその他（未収入金及び仮払金）が5,246百万円、有形固定資産が4,440百万円、現金及び預金が3,772百万円、商品が3,381百万円増加したこと等によるものです。

負債総額は、前連結会計年度末と比べ20,423百万円増加し、114,045百万円となりました。これは主に借入金が20,917百万円増加したこと等によるものです。

また、純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ812百万円増加し、85,581百万円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下、「資金」）は、前連結会計年度末に比べ3,772百万円増加の6,185百万円となりました。当第3四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況と主な内容は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、1,432百万円の資金の減少（前年同四半期は2,889百万円の資金の増加）となり、その主な内容は税金等調整前四半期純利益3,680百万円、減価償却費4,836百万円等による資金の増加と、棚卸資産の増加額3,326百万円、前渡金の増加額1,814百万円、法人税等の支払額1,757百万円、売上債権の増加額1,736百万円等の資金の減少によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、14,058百万円の資金の減少（前年同四半期は303百万円の資金の減少）となり、その主な内容は貸付金の回収による収入3,279百万円等による資金の増加と、有形固定資産の取得による支出8,853百万円、投融資の純増額5,003百万円、投資有価証券の取得による支出2,608百万円等の資金の減少によるものです。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、19,260百万円の資金の増加（前年同四半期は2,474百万円の資金の減少）となり、その主な内容は金融機関からの借入の純増額20,893百万円による資金の増加と、配当金の支払額1,360百万円等の資金の減少によるものです。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	160,000,000
計	160,000,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在 発行数(株) (2023年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2023年8月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	59,266,684	59,266,684	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数 100株
計	59,266,684	59,266,684	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額(百万円)	資本準備金残 高(百万円)
2023年4月1日 ～ 2023年6月30日	—	59,266,684	—	14,303	—	14,346

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2023年3月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

①【発行済株式】

2023年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 275,000	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 58,952,200	589,522	—
単元未満株式	普通株式 39,484	—	一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	59,266,684	—	—
総株主の議決権	—	589,522	—

- (注) 1. 完全議決権株式(その他)における普通株式には、役員報酬B I P信託が所有する当社株式222,500株(議決権個数2,225個)が含まれております。
2. 単元未満株式における普通株式には、当社所有の自己株式69株が含まれております。

②【自己株式等】

2023年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
横浜冷凍株式会社	横浜市鶴見区大黒町5番35号	275,000	—	275,000	0.46
計	—	275,000	—	275,000	0.46

(注) 上記のほか、「役員報酬B I P信託」導入に伴い設定された役員報酬B I P信託が所有する当社株式222,500株を四半期貸借対照表上、自己株式として処理しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2022年10月1日から2023年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

なお、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出しておりますが、訂正後の四半期連結財務諸表については、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,423	6,195
受取手形及び売掛金	13,354	15,095
商品	15,184	18,565
前渡金	169	1,990
短期貸付金（純額）	4,953	2,086
その他	1,890	7,546
貸倒引当金	△47	△25
流動資産合計	37,929	51,455
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	51,457	54,875
機械装置及び運搬具（純額）	8,139	8,453
土地	30,229	30,486
リース資産（純額）	276	308
建設仮勘定	3,924	4,367
その他（純額）	809	785
有形固定資産合計	94,837	99,277
無形固定資産		
のれん	72	39
その他	2,215	3,144
無形固定資産合計	2,287	3,184
投資その他の資産		
投資有価証券	38,731	41,107
長期貸付金	4,661	4,599
その他	1,084	1,127
貸倒引当金	△1,141	△1,124
投資その他の資産合計	43,336	45,709
固定資産合計	140,461	148,171
資産合計	178,390	199,626

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,178	5,272
短期借入金	13,093	22,451
1年内返済予定の長期借入金	4,364	5,802
リース債務	79	94
未払法人税等	933	229
賞与引当金	791	204
役員賞与引当金	29	39
その他	6,911	7,406
流動負債合計	<u>31,382</u>	<u>41,501</u>
固定負債		
社債	30,000	30,000
長期借入金	29,727	39,848
リース債務	213	240
繰延税金負債	49	238
役員報酬B I P信託引当金	143	143
退職給付に係る負債	979	959
資産除去債務	91	91
その他	1,035	1,022
固定負債合計	<u>62,239</u>	<u>72,544</u>
負債合計	<u>93,622</u>	<u>114,045</u>
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,303	14,303
資本剰余金	14,399	14,409
利益剰余金	50,740	51,705
自己株式	△286	△425
株主資本合計	<u>79,157</u>	<u>79,992</u>
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	3,556	3,778
繰延ヘッジ損益	176	△122
為替換算調整勘定	605	616
退職給付に係る調整累計額	△92	△92
その他の包括利益累計額合計	<u>4,245</u>	<u>4,181</u>
非支配株主持分	1,365	1,406
純資産合計	<u>84,768</u>	<u>85,581</u>
負債純資産合計	<u>178,390</u>	<u>199,626</u>

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)
売上高	80,748	92,329
売上原価	71,085	82,800
売上総利益	9,662	9,528
販売費及び一般管理費	6,157	6,797
営業利益	3,505	2,730
営業外収益		
受取利息	392	262
受取配当金	382	400
保険配当金	34	33
為替差益	684	1
受取手数料	82	153
その他	403	322
営業外収益合計	1,979	1,173
営業外費用		
支払利息	272	290
貸倒引当金繰入額	256	—
デリバティブ評価損	312	68
その他	247	124
営業外費用合計	1,088	484
経常利益	4,395	3,419
特別利益		
条件付対価受入益	—	※1 260
特別利益合計	—	260
税金等調整前四半期純利益	4,395	3,680
法人税、住民税及び事業税	1,052	1,112
法人税等調整額	332	222
法人税等合計	1,384	1,334
四半期純利益	3,011	2,345
非支配株主に帰属する四半期純利益	53	21
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,957	2,324

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益	3,011	2,345
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	<u>△308</u>	<u>222</u>
繰延ヘッジ損益	205	<u>△298</u>
為替換算調整勘定	316	32
退職給付に係る調整額	<u>△75</u>	0
その他の包括利益合計	<u>137</u>	<u>△43</u>
四半期包括利益	<u>3,148</u>	<u>2,302</u>
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	<u>3,016</u>	<u>2,260</u>
非支配株主に係る四半期包括利益	132	41

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	4,395	3,680
減価償却費	4,760	4,836
のれん償却額	29	31
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△587	△586
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△3	9
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	256	△39
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	48	△21
受取利息及び受取配当金	△775	△662
受取手数料	△82	△153
支払利息	272	290
デリバティブ評価損益 (△は益)	312	68
条件付対価受入益	—	△260
売上債権の増減額 (△は増加)	△1,106	△1,736
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△4,596	△3,326
前渡金の増減額 (△は増加)	△52	△1,814
仕入債務の増減額 (△は減少)	242	94
未払費用の増減額 (△は減少)	199	123
その他	612	703
小計	3,925	△168
利息及び配当金の受取額	788	642
手数料の受取額	82	153
利息の支払額	△232	△301
法人税等の支払額	△1,674	△1,757
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,889	△1,432
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△7,403	△8,853
有形固定資産の売却による収入	2	4
無形固定資産の取得による支出	△312	△1,070
投資有価証券の取得による支出	△3	△2,608
投資有価証券の償還による収入	961	293
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	7,784	—
条件付対価の決済による収入	—	260
貸付けによる支出	△4,480	△301
貸付金の回収による収入	3,574	3,279
投融資の純増減額 (△は増加)	※2 △209	※2 △5,003
その他	△217	△57
投資活動によるキャッシュ・フロー	△303	△14,058
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△1,105	9,339
長期借入れによる収入	5,000	15,000
長期借入金の返済による支出	△4,928	△3,446
自己株式の取得による支出	△0	△200
配当金の支払額	△1,361	△1,360
その他	△77	△72
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,474	19,260
現金及び現金同等物に係る換算差額	11	2
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	123	3,772
現金及び現金同等物の期首残高	3,160	2,413
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 3,283	※1 6,185

【注記事項】

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

連結の範囲の重要な変更

第2四半期連結会計期間より、VIETNAM YOKOREI CO., LTD.を新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過措置に従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対し、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (2022年9月30日)		当第3四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
OCEANO CORPORATION S. A.	2,896百万円	OCEANO CORPORATION S. A.	4,349百万円
ダイヤモンド十勝株	713	ダイヤモンド十勝株	668
YOKOREI (THAILAND) CO., LTD.	104	YOKOREI (THAILAND) CO., LTD.	104
計	3,714	計	5,122

(四半期連結損益計算書関係)

※1 条件付対価受入益

当連結会計年度(自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)

過去に締結した株式譲渡契約において、一定の条件を満たした場合に追加で対価を受領できる旨の条項が設けられておりました。当連結会計年度において当該条件を満たし、追加で対価を受領したことから当該金額を特別利益に計上しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1. 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)
現金及び預金勘定	3,293百万円	6,195百万円
預金期間が3ヶ月を超える定期預金	△10	△10
現金及び現金同等物	3,283	6,185

※2 投融資の純増減額

特定の海外取引先との取引について、契約内容の経済的実態を踏まえて金融取引として処理している取引の純増減額であります。

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年12月22日 定時株主総会	普通株式	679	11.5	2021年9月30日	2021年12月23日	利益剰余金
2022年5月13日 取締役会	普通株式	679	11.5	2022年3月31日	2022年6月13日	利益剰余金

(注) 1. 2021年12月22日定時株主総会決議の配当金の総額には、役員報酬B I P信託口が保有する当社株式に対する配当金2百万円が含まれております。

(注) 2. 2022年5月13日取締役会決議の配当金の総額には、役員報酬B I P信託口が保有する当社株式に対する配当金2百万円が含まれております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年12月22日 定時株主総会	普通株式	679	11.5	2022年9月30日	2022年12月23日	利益剰余金
2023年5月15日 取締役会	普通株式	678	11.5	2023年3月31日	2023年6月12日	利益剰余金

(注) 1. 2022年12月22日定時株主総会決議の配当金の総額には、役員報酬B I P信託口が保有する当社株式に対する配当金2百万円が含まれております。

(注) 2. 2023年5月15日取締役会決議の配当金の総額には、役員報酬B I P信託口が保有する当社株式に対する配当金2百万円が含まれております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	冷蔵倉庫事業	食品販売事業	その他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	22,254	58,453	39	80,748	—	80,748
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,428	—	34	1,463	△1,463	—
計	23,683	58,453	73	82,211	△1,463	80,748
セグメント利益又は損失 (△)	5,101	1,015	38	6,155	△2,650	3,505

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△2,650百万円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	冷蔵倉庫事業	食品販売事業	その他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	23,495	68,790	43	92,329	—	92,329
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,641	—	24	1,665	△1,665	—
計	25,136	68,790	67	93,994	△1,665	92,329
セグメント利益又は損失 (△)	5,009	831	23	5,864	△3,134	2,730

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△3,134百万円は、各報告セグメントに配賦していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)
冷蔵倉庫事業		
(保管)	10,984	11,976
(荷役)	4,799	4,784
(運送取扱・他)	6,471	6,734
小計	22,254	23,495
食品販売事業		
(水産品)	46,466	55,250
(畜産品)	10,923	12,095
(農産品・他)	1,062	1,444
小計	58,453	68,790
その他	—	—
顧客との契約から生じる収益	80,708	92,285
その他の収益	39	43
外部顧客への売上高	80,748	92,329

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年10月1日 至 2022年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年10月1日 至 2023年6月30日)
1株当たり四半期純利益	50円24銭	39円54銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益 (百万円)	2,957	2,324
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期 純利益(百万円)	2,957	2,324
普通株式の期中平均株式数(千株)	58,873	58,791

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 「役員報酬BIP信託口」が保有する当社株式を、「1株当たり四半期純利益」の算定上、期中平均株式数の計算において控除する自己株式に含めております(前第3四半期連結累計期間222,500株、当第3四半期連結累計期間222,500株)。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第76期（2022年10月1日より2023年9月30日まで）中間配当については、2023年5月15日開催の取締役会において当社定款第42条の規定に基づき、2023年3月31日現在の最終の株主名簿に記載又は記録された株主に対し次のとおり中間配当を行うことを決議しております。

- | | |
|--------------------------|------------|
| ① 中間配当金の総額 | 678百万円 |
| ② 1株当たり中間配当金 | 11円50銭 |
| ③ 支払請求権の効力発生
日及び支払開始日 | 2023年6月12日 |

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2024年12月27日

横浜冷凍株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ
東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 三澤 幸之助

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 宇治川 雄士

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている横浜冷凍株式会社の2022年10月1日から2023年9月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第3四半期連結累計期間（2022年10月1日から2023年6月30日まで）に係る訂正後の四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、横浜冷凍株式会社及び連結子会社の2023年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

その他の事項

四半期報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は、四半期連結財務諸表を訂正している。なお、当監査法人は、訂正前の四半期連結財務諸表に対して2023年8月10日に四半期レビュー報告書を提出しているが、当該訂正に伴い、訂正後の四半期連結財務諸表に対して本四半期レビュー報告書を提出する。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。

【表紙】

【提出書類】	確認書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の8第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2025年1月6日
【会社名】	横浜冷凍株式会社
【英訳名】	YOKOREI CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 古瀬 健児
【最高財務責任者の役職氏名】	常務取締役 吉川 尚孝
【本店の所在の場所】	横浜市鶴見区大黒町5番35号 (上記は登記上の本店所在地であり、実際の本社業務は下記の場所で行なっております。) 最寄りの連絡場所 横浜市西区みなとみらい三丁目3番3号 横浜コネクタスクエア10階 電話番号 (045) 210-0011
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の記載内容の適正性に関する事項】

当社代表取締役社長古瀬健児及び最高財務責任者吉川尚孝は、当社の第76期第3四半期（自2023年4月1日 至 2023年6月30日）の四半期報告書の訂正報告書の記載内容が金融商品取引法令に基づき適正に記載されていることを確認しました。

2 【特記事項】

特記すべき事項はありません。